

相模原市都市計画マスタープラン全体構想骨子（案）
及び相模原市立地適正化計画基本方針（案）
に係る市民意見結果の概要

募集期間 平成31年2月15日（金）から平成31年3月29日（金）まで

意見提出者数 6人

意見件数 30件

担当課 都市計画課 042 - 769 - 8247

(1) 相模原市都市計画マスタープラン全体構想骨子(案)に係る主な意見の内訳

No	分類	No
1	都市づくりの課題に関する意見	1 ~ 4
2	都市づくりの基本目標に関する意見	5
3	将来都市構造に関する意見	6 ~ 10
4	その他の意見	11

No.	該当箇所	意見の内容
1	P13 2 本市の都市づくりの課題	<p>(1) 活力と魅力あふれる都市の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域が持つ特性」の把握は、丁寧にして欲しい。一部の「地域の声」を全てだ、としないで欲しい。 ・市街地の貴重なみどりの保全が謳われていることを高く評価する。 ・快適な居住環境の形成について、「都市で暮らす人間の幸福感のありか」を見誤らずに対応してほしい。 <p>(2) 日本の経済をけん引する多様な産業の振興</p> <p>多様な働き手の活躍促進は、子育て世帯が十分に能力を発揮してキャリアを積むことが必要になると思うので、保育園、学童、中学給食の拡充を是非図ってほしい。</p> <p>(3) 恵み豊かな自然環境の保全・再生</p> <p>(4) やすらぎと潤いがあふれる生活環境の形成</p> <p>(5) 暮らしやすい住環境と魅力ある景観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然がもたらすやすらぎや心地良さを身近に感じられる生活環境の形成」は、都市部に暮らす人間にとって、「快適な居住環境」と感じられる大事な要素だ。住宅街でありながらこの環境の形成がまだ出来ていない地域を整備すると同時に、整っている地域を破壊することのない施策をお願いしたい。 ・「市民が誇りと愛着を持てる魅力的な景観の形成」とあるが、淵野辺駅南口、東林間など、既に「魅力的な景観」を持つ住宅街はある。
2	P13 2 本市の都市づくりの課題	<p>「自然環境の保全・再生」や「やすらぎと潤いがあふれる生活環境の形成」を阻害するリニア新幹線をはじめとする大規模開発を規制し、見直すことが必要である。</p>
3	P13 2 本市の都市づくりの課題	<p>「災害に強い都市基盤と地域社会の形成」は、本計画の最も基本的で急がれる課題だが、その施策の具体化の方向は示されていない。</p>
4	P13 2 本市の都市づくりの課題	<p>橋本駅周辺では、産業集積を図ることで、イノベーションの促進や、昼間人口増による街の活性化を図るべきだと考える。そのためには、後背地に有する産業集積や「さがみロボット特区」制度を活用するだけでなく、高度利用を前提とした街並み形成により、積極的な産業集積の誘導を図り、産業交流拠点の形成を目指すべきである。</p>

No.	該当箇所	意見の内容
5	P15 2 都市づくりの基本目標	基本目標1『活力と交流が新たな価値や魅力を創造するまち』 都市の「活力と魅力」は広域交通ネットワークの形成に伴う経済・交流圏域の拡大の進捗度にほぼ依存する。そのためにも「日本経済をけん引する」産業の振興が本市の至上命題となっているようだ。しかし、企業(それも内外の多国籍企業)にとっての活力や魅力ではなく、住民やそこで働く人々にとっての「活力」や「魅力」(教育や保育や安定した雇用や所得、近隣交通、医療や安全)、安心・安全をこそ、市政の基本に置くべきなのではないか。
6	P17 (3)本市が目指す将来都市構造	豊かな暮らしを実現する都市構造 ・淵野辺駅南口について、桜美林大学との官民連携を「人の交流」だけでなく、駅横の「施設を共同利用する」などの検討をしてほしい。 ・淵野辺の住民も、一寸したものは町田、橋本と並んで古淵に買いに行くようになる。淵野辺駅南口は、今のままのゆったりとした素朴なまちで残したい。「華美ではないけれどゆったりとした住宅街」として残せば、それが市の発展に通じるはずだ。 自然環境を守り生かす都市構造 鹿沼公園については、大して広くない公園なのに、「懐の深さ」があるのは、駅前から広がる街並みの「空の広さ＝建物の低さ」も寄与していると思う。
7	P17、19 (3)本市が目指す将来都市構造	・「自然環境を守り生かす視点」では、都市づくりの課題「(6)災害に強い都市基盤と地域社会の形成」については、何も述べられていない。「都市構造」の課題として、防災対策が重点とされてないことを示している。 ・旧津久井4町の生活拠点と集落エリアの境界がわからない(旧市内も中心市街地、地域拠点、生活拠点などの範囲が不明なので、「集落」があるのかどうかかわからない。たとえば、大沢地区は橋本駅周辺の範囲内なのか、外なのかなど)。 ・5つの「地域拠点」は、広域交流拠点や都市の連携拠点を「都心」とすると、その副都心として、大型商業施設、高層マンションなど、従来型の「活力」、「賑わい」による再開発の対象地域を広げるものである。現在でも人口比重は高いなかで、そのような形で人口増を図れるとは考えられない。
8	P16 (2)将来都市構造構築の視点	将来都市構造を考える上で、反映すべきポイントとして「防災・BCPを実現する視点」を追記するよう提案する。今回の骨子案については、相模原市の想定災害や都市づくりの課題として問題提起がなされているが、それら課題に対応し解決するための案を示すパートであるべき「将来都市構造の視点」の箇所において、「防災・BCPの実現」という要素が見受けられないため。
9	P17 (3)本市が目指す将来都市構造	橋本駅の駅前においては、国内外からの来街者に向けた都市機能整備の観点が必要であると考え、まちの顔を形成する歩行者のパブリックスペースが確保されるべきと考える。

No.	該当箇所	意見の内容
10	P17～18 (3)本市 が目指す将来都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに圏央道、リニア新幹線などの広域的ネットワークなどは強みになる可能性を秘めている。しかし、それをどう生かし、どんな産業を創出し、どんなまちにするかについて、市も市民も議論できていない。「積極的な情報発信」とあるが、個性豊かなコミュニティの創出には双方向の情報発信が必要だ。市はまずアイデアを募るところから始めるべきだ。 ・リニアとは関係ないのに大賑わいの海老名駅周辺、川崎駅周辺に学ぶところは多いと思う。楽しくてまた来たいと思えるまちである。 ・相模原駅周辺は広域交流拠点として橋本駅周辺と一体的に整備されるところであるが、現状ではまちの寂れ方は目を覆うべきものである。「拠点」という前にまちの衰退の原因と解決策を考えるべきである。
11	-	<p>全てにわたってリニア駅誘致をテコとした広域交流拠点計画は、リニア事業の環境破壊、生活破壊の内実において破綻せざるを得ない。</p>

(2) 相模原市立地適正化計画基本方針(案)に係る主な意見の内訳

No	分類	No
1	立地適正化計画策定に当たっての意見	1 ~ 2
2	現況・課題と立地適正化の必要性に関する意見	3 ~ 4
3	立地の適正化に関する基本方針に関する意見	5 ~ 6

No.	該当箇所	意見の内容
1	P2 (2) 都市機能誘導区域	都市機能の誘導について、つぎのような問題が考えられるがどう対処するのか。 (1) 誘導の途中の段階で、残っている人々の生活の利便性は保証されなければならない。学校、病院、公民館などの利便施設への足の確保は市の責任だと考えられるが、具体策はあるのか。 (2) 住民が少しずつ移動すると、残った人々は古くからの人間関係、昔からあった祭りなど共同体としてのアイデンティティを一挙に失うことになる。 (3) 移動によって人々は(高層)マンションの住人になる。そういうまちは無機質で、かつ住民意識も希薄なのではないか。 (4) 虫食い状態になった集落の土地利用をどうするか。
2	P6 参考：市内の主な都市機能(医療・商業)の立地状況	中山間地域での「買い物弱者」対策が必要である。
3	P9 2 土地利用の面	都市部における人口密度が適正に保たれるような土地利用として、市街化区域縁部への市街地拡大を抑制し、『既存市街地内の空き家・空き地の発生を抑制するための居住誘導』とあるが、分譲マンションの管理は大変である。また高層マンションは災害が起きて、エレベーターが止まると居住を続けるのが辛くなる。むしろ、高層化を避けた政策は用意できないのか。
4	P11 4 財政の面	公共建築物の改修・更新費用の試算床面積を80%まで減らす、H44~53年には60%まで減らすとあるが、その一方で大規模事業には惜しみなく予算を使うやり方は市民の納得が得られない。市は、80%や60%まで減らすことの必然性を丁寧に説明すべきである。
5	P15 立地の適正化に関する基本方針	中山間地域(生活拠点)に、「ゆとりがある戸建て住宅などに住み、日常生活必要な施設が確保されたくらし」を、集落エリアには「地域コミュニティのなかで農地・山林の維持・保全に携わるくらし」を保障するのなら、人口の維持は必要であり、中山間地域の人口減少を止め、維持・増加に転じさせる対策を本格的な課題とすべきである。

No.	該当箇所	意見の内容
6	P15 立地の適 正化に関する 基本方針	橋本駅では、リニア中央新幹線開通により、広域交流拠点整備が計画されている。駅前においては、歩行者の安全性確保や、一般車の混雑等の課題を踏まえ、公共交通の検討とあわせて一般自動車交通の整序化の検討が重要である。そのために、駅前エリアにおける駐車場の集約化等の方策が検討されるべきと考える。